

区制施行 90 周年記念特別展

「杉並激動の昭和戦前史展」を開催中

杉並区は、本年 10 月 1 日に区制施行 90 周年を迎えます。杉並区が誕生した昭和 7 年から 10 年もたたない間に、日本は太平洋戦争へと突き進んでいきました。そのような中、杉並区で起きたいくつもの出来事は、新聞紙上でも大きく取り上げられ、歴史の表舞台に立つこととなります。

今回の特別展では、〈2・26 事件と渡邊錠太郎〉、〈荻外荘と近衛文麿〉、〈愛新覚羅溥傑と嵯峨浩〉の 3 つの歴史的な出来事に関連する収蔵資料のほか、新出の貴重な資料を展示し、杉並激動の昭和戦前史をたどります。

〈2・26 事件と渡邊錠太郎〉

昭和 11 年に青年将校の凶弾に倒れた渡邊錠太郎の私邸（現・杉並区上荻）の一部を再現します。その他、新出資料として、前年度にご遺族から寄贈いただいた事件直前に撮影された渡邊の肖像写真や着用していた軍帽・手袋、事件当日に妻・すずが親族宛てに発信した緊急電報などを展示しています。

〈荻外荘と近衛文麿〉

新出資料として、近衛文麿が 2・26 事件に対する所感を長男・文隆へ綴った書簡や、近衛の別邸である荻外荘の応接室の天井を飾った墨画雲竜図（ぼくがうんりゅうず）などを展示しています。

〈愛新覚羅溥傑と嵯峨浩〉

清朝最後の皇帝・愛新覚羅溥儀（あいしんかくらふぎ）の実弟・溥傑（ふけつ）との政略結婚を前にして、嵯峨浩（さがひろ）が不安と覚悟など複雑な心情を吐露した友人への書簡などを展示しています。

開催期間中は、渡邊錠太郎に関する講演会や 2・26 事件をテーマにした映画の上映会などの関連イベントも行います。



▲妻・すずが親族宛てに発信した緊急電報等



▲特別展の様子

区制施行 90 周年記念特別展「杉並激動の昭和戦前史展」

【日時】 9 月 17 日（土）～10 月 30 日（日）午前 9 時～午後 5 時
（会期中休館日：毎週月曜日（祝日の場合は開館、翌日休館）、10 月 20 日（木））
【会場】 杉並区立郷土博物館（大宮 1-20-8）
【観覧料】 100 円（中学生以下、障害者手帳を提示する方およびその付き添いの方は無料）

【問い合わせ先】

杉並区立郷土博物館：03-3317-0841